

大阪経済記者クラブ会員各位

大阪商工会議所による医工連携支援

医療従事者の負担軽減に寄与するリハビリ支援機器「免荷式歩行器」を共同開発 —2027年2月から現場で実証実験を開始—

〔お問合せ〕大阪商工会議所 産業部（易木、松山）

T E L : 06-6944-6484

大阪商工会議所（以下、大商）が運営する医工連携プラットフォーム「次世代医療システム産業化フォーラム（以下、MDF）」の支援を活用し、株式会社椿本チェイン（本社：大阪市北区 URL：<https://www.tsubakimoto.jp/> 以下、椿本チェイン）は、国立病院機構大阪刀根山医療センター（大阪府豊中市、以下、大阪刀根山医療センター）と連携し、医療従事者の負担軽減に資するリハビリ支援機器「免荷式歩行器(※)」のプロトタイプを共同開発。2027年2月より実際の医療現場での実証を開始、2028年度中に販売開始を予定している。

- リハビリ現場における、自力で体重を支えながら歩くことが難しい患者の歩行練習では、安全性への配慮と、適切な介助が不可欠となっている。既存の平行棒や天井走行式リフトは、日常動作の再現性が低く、また従来の歩行器は、ハーネスの装着・操作が煩雑であるなどの課題がある。
- 一方で、大商が2003年から運営するMDFでは、全国の医療機関から寄せられる現場ニーズとのマッチングや事業化相談、開発品評価など、医療機器開発のあらゆるステージを対象とした支援事業を四半世紀にわたり行っている。その中で、大商が2022年度に実施したMDFを契機として、ニーズ発表した大阪刀根山医療センターと椿本チェインが連携を開始。引き続き大商が医療機器分野の専門アドバイザーによる事業化相談対応などで側面支援した後、椿本チェインと大阪刀根山医療センターは、2025年に共同研究契約を締結し、今回の開発に着手した。今回開発している新しい免荷式歩行器は、患者の歩行動作を妨げることなく、より自然な歩行練習が可能なることに加え、独自開発したハーネスにより100kgの患者や、重度介助を要する患者にも対応が可能なるほか、装着作業に必要な医療従事者も従来の2名から1名に省人化できることが特長。
- 今後の予定として、2026年11月の第80回国立病院総合医学会 付設展示会への出展や、2027年2月より大阪刀根山医療センター等での実証実験の開始を予定しているほか、2028年度に販売開始を予定している。本装置の実用化により、患者の安全を確保しながら質の高い歩行練習を実現するとともに、リハビリ現場の省人化・負担軽減への貢献が期待される。



リハビリ支援機器「免荷式歩行器」

※免荷式歩行器…下肢にかかる体重負荷の負担を軽減しながら、歩行練習や移動を行うための医療・リハビリテーション機器。

（参考）次世代医療システム産業化フォーラム（MDF）について

大商は、異業種から医療分野への新規参入や新ビジネス創出を目的とした、全国最大規模の医工連携プラットフォーム事業「次世代医療システム産業化フォーラム」を通じて、四半世紀に亘り、医療機器開発のあらゆるステージを対象とした事業を展開。1,000件に及ぶ医療現場ニーズと企業とのマッチングや、5,000件以上の事業化相談対応などを経て、数多くの医療機器開発プロジェクトの創出や事業化の実績を重ねている。今後、国内外の支援ネットワークを生かした医療機器開発のグローバルエコシステム構築に向けた取組みを加速化する。URL：<https://www.osaka.cci.or.jp/mdf/>

以上